

通信機専用最高級デスクトップマイクロホン

MD-200A8X 取扱説明書

(株)バーテックススタンダードの製品をご愛用いただき、誠にありがとうございます。

特長

- ❑ SSB 送信を主目的に新開発したダイナミック・エレメントを採用し、明瞭度が高くダイナミックレンジの広いインパクトのある送信音質を実現しました。
- ❑ マイクエレメントのサイドダンパー開口量を連続的に可変することにより送信音の周波数レスポンスを調整する、新開発の“**VSPC (Variable Side Pressure Control)**”を採用しました。この機能により、明瞭度の高いエネルギー豊かな周波数レスポンスから重厚でダイナミックな周波数レスポンスまで、好みに応じて連続的に変化させることができます。
- ❑ マイクロホンヘッド内に、マイクエレメントを追加できるスペースを設けました。お好みのマイクエレメント※1を追加することにより、自分だけの特製マイクロホンにすることができます。なお、『オリジナルエレメント』と『追加エレメント』をワンタッチで切り替えることができるスイッチも設けましたので、状況に応じて簡単に使い分けることができます。
- ❑ その他、操作フィーリングを重視した PTT スイッチを採用するとともに、PTT ロック機構・UP/DWN スイッチ・LED による送信インジケータなども装備し、操作性も良好です。

取付方法

1. 第 1 図を参考に、マイクスタンドにマイクエクステンションを取り付け、付属のツマミネジでマイクロホンヘッドを取り付けます。
2. マイクロホンヘッドから出ているケーブルを、マイクスタンド背面の **MIC HEAD** 端子に接続します。
3. マイクスタンド背面の **MIC** 端子とトランシーバーの **MIC** 端子を、付属のマイクロホンケーブルで接続します。トランシーバーの **MIC** 端子が“8 ピン端子”の場合は、付属のマイクロホンケーブルを『モジュラー端子』側に接続します。反対に、トランシーバーの **MIC** 端子が“モジュラー端子”の場合は、付属のマイクロホンケーブルを『8 ピン端子』側に接続します。

▲ 使用上のご注意

- ❑ 電源ノイズや電源ハムを避けるため、**MD-200A8X**は電源装置や電源ケーブルなどから、なるべく離して設置してください。
- ❑ 送信電波の回り込みを避けるため、**MD-200A8X**はアンテナやアンテナケーブルから、なるべく離して設置してください。
- ❑ **MD-200A8X**は、マイクロホンヘッドのみでは使用できません。必ずマイクスタンドに取り付けた状態で使用してください。
- ❑ マイクエレメント切り替えスイッチは、必ず受信状態で操作してください。送信中に切り替えると、切り替えノイズにより、トランシーバーの送信回路が故障する原因になることがあります。

※ 1: 追加可能なマイクエレメントは、インピーダンスが 200 ~ 3k Ω 程度のダイナミック型 / マグネチック型 / クリスタル型エレメントなどです。コンデンサ型などの『電源を必要とするマイクエレメント』は使用できませんのでご注意ください。

音質調整

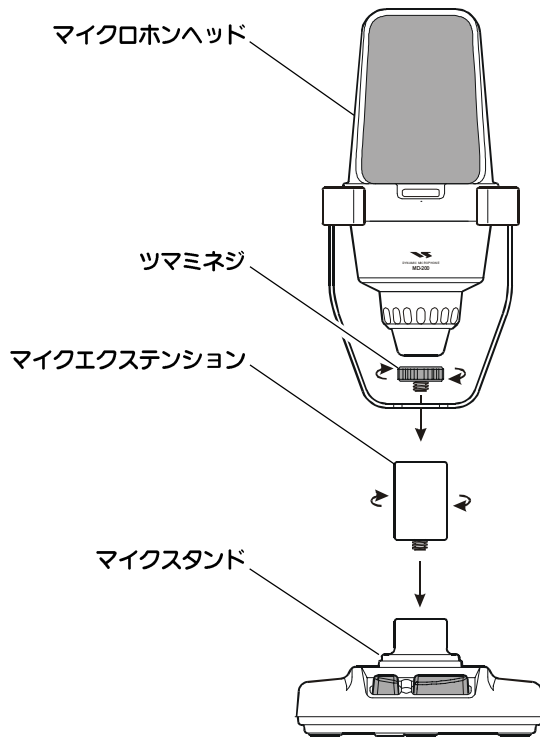
1. 第 2 図を参考に、コイン等を使用して左右にある金色のビス (2 本) を外し、マイクロホンヘッドをマイクスタンドから外すとともにメッシュドーム部をマイクロホンヘッドから取り外します。
 ビスに傷が付かないよう、マイナスドライバーは使用せず、コイン等を使用してください。
2. 第 3 図を参考に、マイクエレメントに取り付けてある“**VSPC**”をゆっくりとまわし、音質を調整します。“**VSPC**”に付いている“**■**”マークが上側にあるとき (工場出荷時の位置) が、低音が一番強調された音質になり、その位置より左右にまわすほど低音が抑制された音質になります。どちらの方向にまわしても同じ効果が得られ、180 度まわした位置 (“**■**”マークが下側にあるとき) が低音が一番抑制された音質になります。
 ◎ “**VSPC**”は非常にデリケートな精密加工品です。無理にまわして破損しないよう、取り扱いには十分ご注意ください。
◎ “**VSPC**”をまわす際には、空いている方の手でマイクエレメントを押さえながら、まわしてください。
3. 調整が終わりましたら、マイクロホンを元通りに組み立てます。

マイクエレメントの追加方法※1

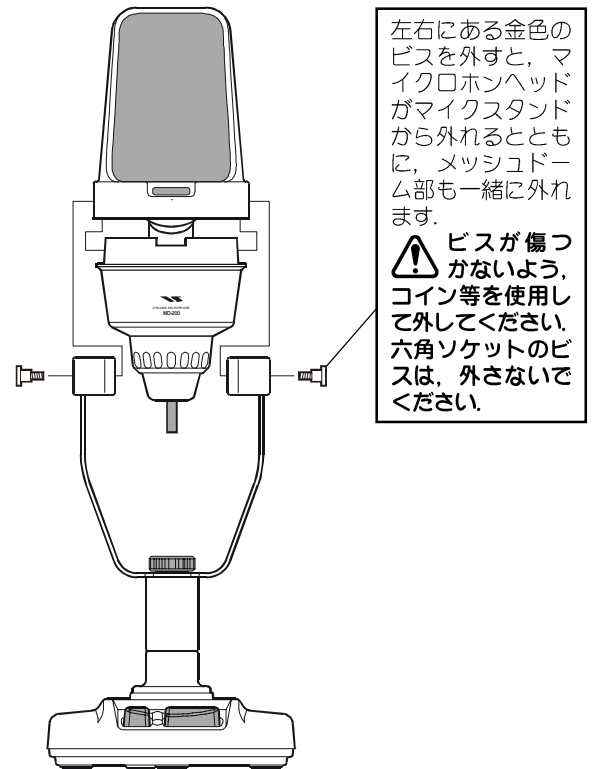
1. 第 2 図を参考に、コイン等を使用して左右にある金色のビス (2 本) を外し、マイクロホンヘッドをマイクスタンドから外すとともにメッシュドーム部をマイクロホンヘッドから取り外します。
 ビスに傷が付かないよう、マイナスドライバーは使用せず、コイン等を使用してください。
2. 第 4 図を参考に、付属の取付板を使用して、追加エレメントをマイクエレメントに取り付けます。
 音声入力で振動しないよう、確実に取り付けてください。
3. 風切り音が気になるときや、追加エレメントが外側から透けて見えて気になる場合は、付属のスポンジを追加エレメントに巻き付けてください。
4. マイクロホンヘッドの内部にある、LED UNIT の“**MIC-B**”端子に追加エレメントの信号線を、“**B GND**”端子にシールド線をハンダ付けします。
5. マイクロホンヘッドを元通りに組み立てます。
6. マイクスタンド底面にある、マイクエレメント切り替えスイッチを“**B**”側に切り替えます。オリジナルのマイクエレメントを使用するときには、マイクエレメント切り替えスイッチを“**A**”側に戻します。
なお、追加したマイクエレメントを使用するときには、マイクロホンヘッドを 30 度位後ろの方向に傾けると、音声が良い拾えるようになります。
 マイクエレメント切り替えスイッチは、必ず受信状態で操作してください。送信中に切り替えると、切り替えノイズにより、トランシーバーの送信回路が故障する原因になることがあります。

製造元・株式会社バーテックススタンダード
〒153-8644 東京都目黒区中目黒 4-8-8

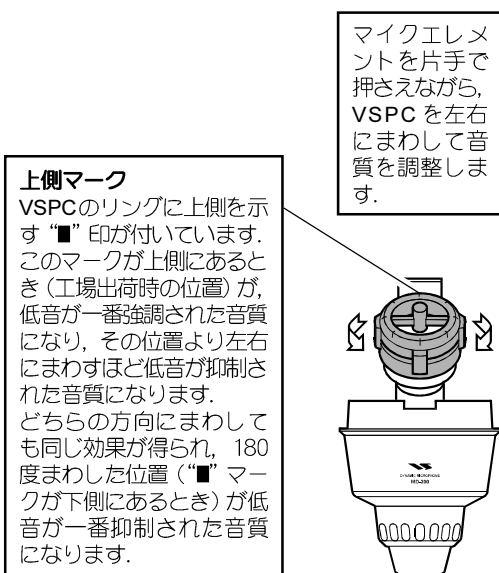
組立・分解方法



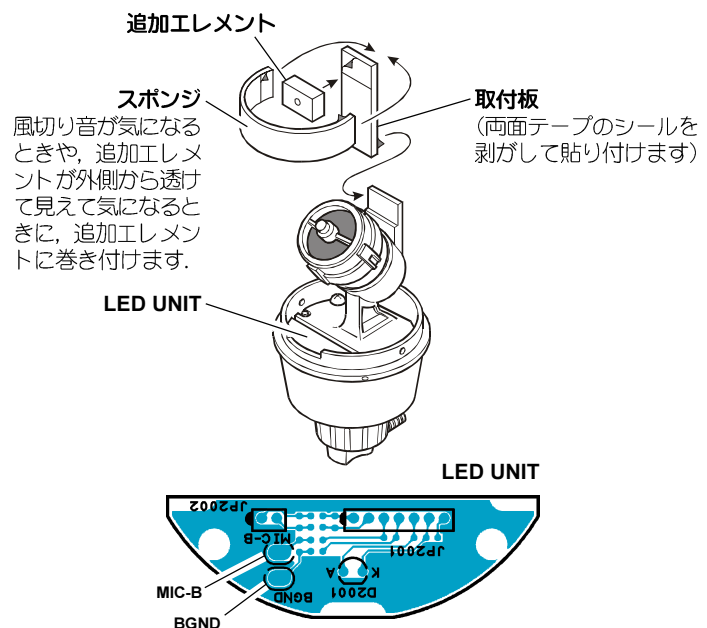
第1図



第2図



第3図



第4図

定格

マイクロホン型式：ダイナミック型
周波数範囲：30 ~ 17000 Hz
感度：-62 dB (1 kHz, 0 dB = 1V/1 Pa)
出力インピーダンス：600 Ω
本体寸法：(幅)120X(高)290.5X(奥)124.5 mm
本体重量：約1kg

適応機種

MARK-V FT-1000MP, FT-1000MP,
FT-1000/FT-1021シリーズ※2,
FT-1011シリーズ※2, FT-920シリーズ,
FT-900シリーズ, FT-847シリーズ
FT-840シリーズ※2, FT-817

※2：FT-1000/FT-1021シリーズ・FT-1011シリーズ・FT-840シリーズでは、送信インジケータは動作しません。

各部の名前と説明

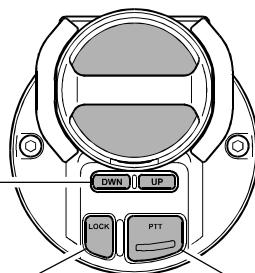
UP/DWN スイッチ

UPスイッチを押すと周波数やメモリーチャンネルがアップし、DWNスイッチを押すと周波数やメモリーチャンネルがダウンします。

スキャン機能の付いたトランシーバーに接続した場合には、押し続けるとスキャンが始まります。

ロックスイッチ (LOCK)

ロック機構が付いたPTTスイッチです。一度押すと送信状態を維持します。もう一度押すと、受信状態に戻ります。



送受信切り替えスイッチ (PTT)

押している間だけ送信状態になります。離すと受信状態に戻ります。

マイクロホンヘッド

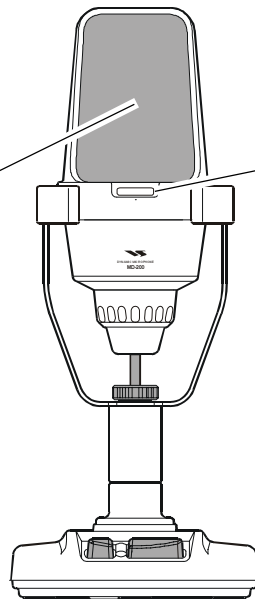
この中にマイクエレメントがあります。ここに向かって話します。



内部にあるマイクエレメントは、マイクロホンヘッドが直立した状態で音声がよく拾えるように角度を付けて取り付けられています。マイクロホンヘッドを極端に傾けて使用すると、本機の性能を十分に発揮できない場合があります。

送信インジケータ

送信時に赤色に点灯します。
機種によっては、点灯しない場合があります。

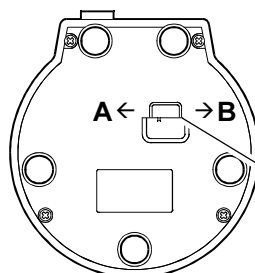
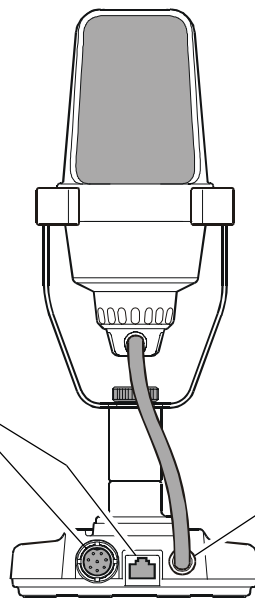


MIC 端子

付属のマイクロホンケーブルを接続する端子です。トランシーバーのMIC端子が“8ピン端子”の場合は、付属のマイクロホンケーブルをスタンド背面の『モジュラー端子』側に接続します。反対に、トランシーバーのMIC端子が“モジュラー端子”の場合は、付属のマイクロホンケーブルをスタンド背面の『8ピン端子』側に接続します。

MIC HEAD 端子

マイクロホンヘッドから出ているケーブルを接続する端子です。



マイクエレメント切り替えスイッチ

マイクエレメントを切り替えるスイッチです。オリジナルのマイクエレメントを使用する際には“**A**”側に、後付のマイクエレメントを使用する際には“**B**”側に切り替えます。